

第7次安城市行政改革大綱 令和5年度実績報告書 (計画期間：令和4年度～令和8年度)

重点目標	実施項目	目指すべき姿	令和5年度の主な取組内容	進捗管理指標					
				R4	R5	R6	R7	R8	
経営資源の最大活用	①人材の育成・活用	<p>上司との適切な面談・透明性のある人事評価・効果的な研修制度等を通じて、すべての職員が自身の成長を実感するとともに、自ら学び、課題の解決に向けて挑戦できる人材育成を実現します。</p> <p>また、年齢・性別等に関わりなく、職員を適材適所に配置することで、組織の活性化を実現します。</p>	<p>新規</p> <ul style="list-style-type: none"> 他部署の年齢の近い先輩職員（メンター）が、新規採用職員（メンティ）に対して、職場内での悩みや問題解決のサポート、キャリア形成支援を行うメンター制度を実施。新規採用職員の内47人に対してメンターを選定、2か月に1度1時間程度の面談を実施した。 自治体におけるDX推進の意義や課題解決のためのデータの分析方法等を習得し、データの利活用による政策立案、いわゆるEBPM研修を実施。 第8部研修（先進都市視察研修）について、より多くの職員が受講しやすいように視察先を民間企業も可とするなど制度変更し、実施。 <p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 『目指す職員像』の実現に向け、各種職員研修を実施。 	仕事を通じて成長していると実感する職員の割合 目標値(R8):95%以上					参考値 R2 87.4%
				R4	R5	R6	R7	R8	
				85.6%	92.8%				
	②働きやすい職場環境づくり	<p>勤務時間・休暇取得・執務環境などの就労環境において、職員が不満を感じることなく、職員の能力が最大限発揮できる職場環境を実現します。</p> <p>また、職員提案制度を活用し、職員の先進的な業務改善事例を全庁に展開するとともに、職員の気付き・課題認識に基づく職員からの提案を全庁の業務改善に結び付けます。</p>	<p>新規</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークライフバランスのための（職員からの請求による）時差出勤・在宅勤務の運用を新たに開始。目的を問わず在宅勤務や時差出勤できる環境を整備。 新たな時差出勤制度開始に伴い、前後1時間の冷暖房稼働時間の拡張を実施。 職員提案制度において、新たに未実施かつ実現性のあるアイデア提案を特出して募集。※以前から未実施の提案も可能だが、アイデアも評価されやすいよう職員提案を改善したもの。 休暇、休業中の仕事に関する情報提供、子育てに関する情報共有等を行うため、育休者同士のチャットグループ（業務上使用しているロゴチャット）の運用を開始。 業務の適切な進捗管理や係内のコミュニケーション向上を図るため、優良事例を周知し、月1回程度の全庁的な係打合せの実施を依頼。 <p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員提案制度による全庁的な業務改善。（提案件数1,482件） 令和3年度にとりまとめた『職員満足度向上に向けた提言書』の提案実現に向けて各種取組を実施。 執務室内の5S（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）を改めて徹底するよう各部課長に周知。また、整理整頓の実施状況を確認するため、職場巡視を実施。 	1人あたり時間外勤務時間（年間） 目標値(R8):令和3年度実績から2割削減					参考値 R3 152.2時間
				R4	R5	R6	R7	R8	
				166.3時間	159.6時間				
	③資産の適切な管理・運用	<p>公共施設等の維持管理にあたっては、計画的な予防保全と長寿命化の推進を通じて、安全な施設の利用環境を整備します。</p> <p>また、今後利用見込みのない市有地の適正な処分を推進するとともに、民間活力の導入等を含めた資産の有効活用に取り組めます。</p>	<p>新規</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての公共施設の利用状況や劣化度具合の把握、施設毎の課題を整理し、今後の公共施設の総合的かつ計画的な管理を行うため、個別施設計画を改訂。 <p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通財産の適切な管理・活用に関する基本方針の策定に向けロードマップを作成した。ロードマップに沿って必要な調査・検討を実施している。 今後の利用見込みの低い市有地の内1か所を処分するため、必要な手続きを実施。（処分金額46,950千円） 	職員満足度調査における総合満足度 目標値(R8):不満層5%以下					参考値 R2 11.7%
				R4	R5	R6	R7	R8	
				14.2%	12.3%				
	③資産の適切な管理・運用	<p>公共施設等の維持管理にあたっては、計画的な予防保全と長寿命化の推進を通じて、安全な施設の利用環境を整備します。</p> <p>また、今後利用見込みのない市有地の適正な処分を推進するとともに、民間活力の導入等を含めた資産の有効活用に取り組めます。</p>	<p>新規</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての公共施設の利用状況や劣化度具合の把握、施設毎の課題を整理し、今後の公共施設の総合的かつ計画的な管理を行うため、個別施設計画を改訂。 <p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 普通財産の適切な管理・活用に関する基本方針の策定に向けロードマップを作成した。ロードマップに沿って必要な調査・検討を実施している。 今後の利用見込みの低い市有地の内1か所を処分するため、必要な手続きを実施。（処分金額46,950千円） 	今後利用見込みのない市有地の処分手続件数（累計） 目標値(R8):5件					参考値 R3 1件
				R4	R5	R6	R7	R8	
				1件	2件 (累計)				

重点目標	実施項目	目指すべき姿	令和5年度の主な取組内容	進捗管理指標								
健全財政の維持	④事務事業の最適化	各課は毎年度、事務事業をゼロベースで見直し、最小の経費で最大の効果が発揮できるように事務事業のスクラップ&ビルドを推進します。 また、行政評価（外部評価）の実施により外部の視点を事務事業に反映させ、事業効果を向上させるとともに、業務の棚卸しを実施し、ICTの活用を含めた業務プロセスの効率化・最適化を実現します。	新規 <ul style="list-style-type: none"> 第9次総合計画の策定にあわせて、既存の事務の見直しによる財源確保及び業務量の削減等を図るため、「事務事業総点検」を実施。（R6年度継続中） 継続 <ul style="list-style-type: none"> 当初予算編成時に、職員の新たな発想により歳入の増加や経費の削減を行う「創意と工夫」を実施。（経費削減額と歳入増加額89,240千円） 行政改革審議会による外部評価の実施。（5事業） ソフトバンク㈱と連携し、ICTを活用した業務プロセスの効率化・最適化の支援、提案を実施。（7業務） 	行革効果額（累計） 目標値(R8):20億円								
				R4	R5	R6	R7	R8				
				約2.4億円 (237,206千円)	約5.4億円 (537,919千円)							
				行政評価（外部評価）を実施した事業数（累計） 目標値(R8):20事業					参考値			
									R3			
									9事業			
						R4	R5	R6	R7	R8		
						10事業	15事業					
	⑤自主財源の確保	事務事業の推進にあたっては国の補助金・交付金の活用に努めるとともに、市の貯金にあたる財政調整基金をはじめとする各基金を適切に管理していきます。 また、自主財源のさらなる安定的な確保に向けて、ふるさと納税を拡充するとともに、クラウドファンディングや企業版ふるさと納税を活用した事業を実現します。	新規 <ul style="list-style-type: none"> ふるさと納税について、魅力的な返礼品を多くの方に知っていただく機会を創出するため、チラシやポスターの作成、ポータルサイト広告の掲載、PayPay商品券の導入、新規ポータルサイト「ふるなび」の導入を行った。（新規返礼品128件、合計寄附額113,051千円） 継続 <ul style="list-style-type: none"> 成果連動型民間委託方式により、ふるさと納税（企業版）の寄附募集を実施。（ふるさと納税（企業版）の寄附件数20件、合計寄附額4,845千円） ネーミングライツ等の広告事業の実施。（広告収入相当額20,717千円） 	ふるさと納税（企業版含む）による寄附金額（年間） 目標値(R8):3億円					参考値			
									R3			
									約1億円 (103,920千円)			
									R4	R5	R6	R7
					約1億円 (105,035千円)	約1.2億円 (124,083千円)						
⑥民間事業者等の知見を活かした取組の推進	民間事業者等の知識・ノウハウ・資金を行財政運営に積極的に活用するなど、公民連携の推進により、質の高い行政サービスを提供し、地域課題の解決及び地域の活性化を図ります。 また、成果連動型民間委託等の新たな民間委託の取組を推進します。	新規 <ul style="list-style-type: none"> 民間提案による社会課題の解決に向けた実証事業を実施。（4事業） SDGs共創パートナー企業同士のつながりと公民連携の促進を図るためパートナー企画によるセミナーを開催。（計26社（団体）が参加） 市民向けSDGs啓発イベント開催「SDGsフェスタinあんじょう」来場6,000人「あんじょうSDGs共創パートナー」によるブース出展（出展22団体） 安城東部小学校で学区内のあんじょうSDGs共創パートナー企業3社がSDGsに関する授業に協力 安城高校の地域交流活動グループが、あんじょうSDGsパートナーと協力して「ローゼル」（植物）を通じた健康増進・就労支援・環境保全活動を実施 	民間事業者等と連携して新たに実施した事業数（累計） 目標値(R8):20件					参考値				
								R3				
								8件				
								R4	R5	R6	R7	R8
								8件	16件			

重点目標	実施項目	目指すべき姿	令和5年度の主な取組内容	進捗管理指標					
				R4	R5	R6	R7	R8	
行政のデジタル化	⑦デジタル化による市民の利便性向上	<p>行政手続のオンライン化やキャッシュレス決済の導入など、行政のデジタル化による便益を市民が享受できる取組を推進します。</p> <p>また、ほぼすべての市民にマイナンバーカードを交付し、その利活用を通して行政サービスを円滑に提供できる環境を実現します。</p>	<p>新規</p> <ul style="list-style-type: none"> 国が示す「地方公共団体が優先的にオンライン化を推進すべき手続」オンライン化を実施。（オンライン手続数 累計48手続） オンライン相談の拡充（あんステップ）。 リモート相談窓口の設置 マイナンバーカードを活用した書かない窓口の導入。 公共施設へのキャッシュレス決済導入に向けた検討。 <p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> オープンデータ作業部会を活用したオープンデータ化の推進。（オープンデータ数 新規14件 累計63件） 事業者へ委託し、福祉センターや公民館で継続的にスマホ講座を実施。 口座振替登録のオンラインサービスの実施。 <p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> マイナンバーカードを活用した書かない窓口の導入や、リモート窓口の設置をするなど、市民サービスの向上や行政手続のオンライン化に向けた取り組みを進めることができた。 	<p>オンライン申請ができる手続数</p> <p>目標値(R5):令和5年度末までに48手続</p>					<p>参考値</p> <p>R3</p> <p>18手続</p>
				R4	R5	R6	R7	R8	
				39手続	48手続				
	⑧ICTを活用した業務の効率化	<p>AI・RPA等のICTを活用し、職員の作業時間及び人為的ミスの大幅な削減を目指します。</p> <p>併せて、ペーパーレスの推進により紙文化から脱却するとともに、WEB会議やチャット等のツールを活用し、いつでもどこでも滞りなく業務が遂行できる環境を実現します。</p>	<p>新規</p> <ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス、Web会議推進用モニターの設置拡大。 市長等協議におけるペーパーレス化の実施。 <p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> AI-OCRやRPAの啓発、各種業務への適用を推進（AI・RPA業務 新規12業務 累計60業務） チャットツールの利活用推進。 <p>《総括》</p> <ul style="list-style-type: none"> AI、RPAの活用により、職員の作業時間を削減することができた。引き続き、市長等を含め、内部協議のペーパーレス化及び電子決裁を全庁的に推進していく。 	<p>ICTの活用により削減された作業時間数（年間）</p> <p>目標値(R8):2,000時間</p>					<p>参考値</p> <p>R3</p> <p>1,333時間</p>
				R4	R5	R6	R7	R8	
				2,471時間	5,635時間				
	⑨情報システムの最適化・強靱化	<p>国が主導する標準準拠システムへの円滑な移行に向け、関係部署と連携しながらシステム標準化に向けた取組を推進します。</p> <p>また、故障やセキュリティ侵害により市政に影響が生じないよう、システムを適切に管理します。</p>	<p>新規</p> <ul style="list-style-type: none"> 10業務をガバメントクラウドに移行。 10業務の内2業務の標準準拠システムへの改修を開始。 <p>継続</p> <ul style="list-style-type: none"> 現行システムと標準仕様書との比較分析。 	<p>システム標準化</p> <p>目標値(R7):令和7年度末までに国が示す20システムを標準化</p>					<p>参考値</p> <p>R3</p> <p>763万枚</p>
				R4	R5	R6	R7	R8	
0業務				0業務					